

北大経済学部 同窓会報

Hokkaido University
Faculty of Economics

第40号



発行者
北海道大学経済学部
同窓会

発行日 2024年9月1日

TEL & FAX (011)706-4113

Email dosokai@econ.hokudai.ac.jp



ごあいさつ

北大経済学部
同窓会会長
板谷 淳一
(昭和53年卒)



同窓会の会員の皆様に会報40号をお届けします。北海道大学経済学部・経済学院および同窓会活動の近況などを中心に編集いたしました。

北海道大学経済学部では、本年4月に久保田肇教授を引き継いで久保淳司教授が研究院長・学院長・学部長に就任されました。

さて、コロナ禍も収束し、世の中は正常化に向かいつつありますが、皆様はどのようにお過ごしでしょうか。未曾有の世界的パンデミックの後には、さらに大きな危機が進行中です。それは、世界が人口減少時代に向かいつつあるという事実です（結局、マルサスも既存の経済学も人口減少が経済にもたらす深刻な状況は予見できなかったと思います）。食料が十分供給されるにもかかわらず、北海道をはじめとする多くの市町村が、人口減少のため消失をすることが

予想されています。最近、仕事でフランスに行く機会があったのですが、都市では、アフリカからの移民と思われる人々を多く見かけました。人口減少の時代であると同時に、アフリカの時代が目の前に来ているような気がします。日本は移民に厳しい政策を続けている国ですが、人口減少を抑制するためにも移民に対して門戸を広げる時期にきているのではという気がします。このような不確実な時代を迎えるにあたり、高度なスキルを持つだけでなく、将来への確かな見識を持った人材を供給するための教育拠点として、北海道大学および経済学部的重要性がますます高くなることは言うまでもありません。

このような人材育成の一助になることを目指して、同窓会が近年取り組んでいる活動をご紹介します。最初に、長く本学で教鞭を執られ研究分野でも多くの業績を残された園先生のご寄付によって「園信太郎賞」が昨年、創設されました。統計分野を学ぶ学生たちを支援したいとの園先生のご意志に従い、統計学検定1級及び準1級を通った学生に対して、同窓会として奨学金を授与することに決定しました。今年は、この難関な試験に対して、2名の受賞者を出しました。

2つ目は「北海道の経済を活性させるための地域経済活性プラン」の募集とプレゼンテーションを行うイベントを一昨年から始めました。昨年は8チームが参加し競い合いました。市町村消失が進むと予想される北海道経済を理解する一方、人口減少対策を考えるきっかけになればという目的で始めました。

3つ目は「出前講義」です。昨年は経営学の平本教授にご協力いただき講義をもうけました。今後も広く講師を同窓会の皆様に募り、皆様ご自身の人生における貴重な体験やお仕事についての意義を現役の学生たちに語っていただき、学生たちへの就職選択の一助となるようこの講義を発展させたいと思っています。

3月22日には令和5年度の卒業式が行われました。経済学部の学部卒業生は203名、大学院の修士課程、会計専門職大学院、博士課程の修了者が62名、合計265名でした。大学を巣立っていく皆さんの今後のご健闘を祈ります。

最後になりますが、会報40号にご寄稿くださいました皆様や、会報作成にご協力をいただきました事務局の皆様心から感謝いたします。



同窓会におかれましては、現役学生に対する金銭・物資の支援にとどまらず、「園信太郎賞」の創設のように、学生を学問の道に誘うような企画を実行していただき、深く感謝しています。国立大学をめぐる情勢が年々悪化している中、我々が成さねばならないことは我々自身が努力することは当然として、それを超える部分につきましての引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2 Hokkaido University Faculty of Economics

新任の挨拶

平野 智久 (2023年度着任)

2023年4月より北海道大学大学院経済学研究院准教授として着任しました。主に会計専門職大学院で「財務諸表論」「会計事例研究」「国際財務報告基準論」を、また本年4月からは学部3・4年生向けの「演習」も担当しています。なお、今年度は学部相談員やクラス副担任として、学部1年生と交流する機会もあります。



会計学は、カネの数え方（殖やし方ではない）にかんする学問であり、各種の簿記検定や公認会計士・税理士といった国家資格でお馴染みですね。試験では1問でも多く正解することが最重要ですが、会計基準を暗唱したり計算のテクニックを身体で覚えたりが最善の勉強法とは限りません。担当教員からは現行制度とは異なる考え方や学会における最先端の議論を紹介し、学生はそれらをふまえて自分自身の意見を論理的に述べる……そのような双方向型の授業を意識しています。会計基準とは（現在の、その法域での）社会で合意されている制度であって、時代や場所など環境が変われば相応しい制度も異なり得るからです。

2012年秋から10年半にわたり福島大学で教育・研究に従事するなかで、原子力発電施設の廃止にかんする会計問題を取り上げる機会がありました（平成28年度日本簿記学会奨励賞；平成29年度学長学術研究奨励賞）。北海道大学に所属する会計学徒として何ができそうか、これから少しずつ探していこうと思っています。今後ともよろしくどうぞお願いいたします。

牧岡 亮 (2021年度着任)

2021年8月に北海道大学経済学研究院にテニュアトラック講師として着任し、2024年4月より准教授になりました。学部では経済学応用（産業組織論）、大学院では応用ミクロ経済学などの授業を担当しています。研究では、国際経済学や応用ミクロ経済学、その中でも特に、データを用いて国レベルの貿易政策や企業に向けた輸出促進政策などが、国もしくは企業にどのような影響を与えるかを主に研究しています。



着任してからすでに数年経ちますが、北大の印象としては、広大なキャンパスがきれいなことと、学生の方々が少し控えめですが、素直で真面目で頭が良いという印象を持っています。また札幌の街自体についても、安くておいしい食べ物がたくさんあることや、自然が多く、車で数十分・数時間行けばいろいろな町に行けるという立地であり、非常に好印象をもっています。

現在私は、2024年4月より2年間の在外研究の期間をいただいております。アメリカのペンシルベニア州立大学というところに滞在しています。同大学は、私が博士号を取得した学校ということで、教員や学生などにも知っている顔があり、楽しんで研究に動いています。ただ、家族とともに滞在しているのですが、週に1回以上必ず出てくる話題としては、「札幌の安くておいしいレストランに行きたい」ということです。安くておいしいレストランのある環境は、3月までは当たり前のようには考えておりましたが、無くなってそれらの大切さを再認識しているところです。

在外研究に出る以前は、主にコロナ過であり、また私自身のゼミを開講していなかったということもあり、講義以外で学生の方々と関わるのが比較的少なかったと感じていました。2026年に北大経済学研究院に戻る際には、これまで以上に学生の方々とかかわることができるかと思っております。今から楽しみにしております。

札幌の家具付き賃貸ならノースステイ

North Stay

North Stay は、札幌でウィークリー・マンスリーマンションや家具家電付の賃貸マンションを運営しております。ご旅行やご出張など、お客様のあらゆるシーンにあわせて、快適な住居空間をご提供させていただきます。

〈ノースステイホームページ〉
www.north-stay.com/

札幌のマンスリー
マンションなら
ノースステイへ！
北大関係者様多数
ご利用いただいで
おります。



株式会社 賃貸生活

代表取締役 佐藤 有

こちらのフリーダイヤルまでお気軽にお問い合わせください

【ノースステイ受付窓口】

フリーダイヤル ☎ 0120-277-271 011-206-8996

〒060-0062 北海道札幌市中央区南2条西9丁目1-2 サンケン札幌ビル2F
TEL 011-206-8996 / FAX 011-206-8127

□ 賃貸生活のホームページ
www.on-1.net

ゼミ紹介 平本ゼミ

ゼミの活動

1997年4月に北大に着任し翌年からゼミを担当して、早いもので27年目になります。この間、150名以上のゼミ生が社会に巣立っていきました。

わたしの着任後、経営学分野の大御所でいらっしゃる寺本義也先生が1998年4月に北陸先端科学技術大学院大学へ転出することが決まり、寺本ゼミ生を7名ほど、わたしのゼミの第1期生として引き受けることになりました。『『てらもと』と『ひらもと』はたったの1字違いなので、何とかなるだろう』と寺本先生がお考えになったかどうかは定かではありませんが、こうして初年度のゼミがスタートしたことは懐かしい思い出です。

かつては毎週21時から22時までゼミを行い、その後にはほぼ毎回、正門すぐの居酒屋「松」をはじめ、いろいろな飲み屋で明るくなるまで打ち上げ（という名の「本ゼミ」）を行っていました。今では学生の気質が変わり、わたしの体力も落ちました。さらにはコロナ禍のせいで、飲み会は

おろか対面ゼミさえ出来なくなってしまい、こうした「昭和的慣習」も完全になりを潜めました。今では定刻の18時までにゼミが終わります。いやはや、品行方正にもほどがあります…。

ゼミOB・OGのみなさんが、今でもたまにゼミを訪れてくれたり、会合に誘ってくれたりします。当時は頼りなげな学生だった彼／彼女らが立派な社会人になり、それぞれの分野で大いに活躍しています。このことが何にも代えがたい一番の喜びです。

定年までわずか数年ですが、限られた残りの時間で「この世界を良くしてくれるポテンシャルのある人材」を輩出できればと願っています。引退後もゼミOB・OGのみなさんと折に触れて交流が出来ることを楽しみに、最後のひとつぶばりを頑張りたいものです。



ゼミ生からのメッセージ

□現役ゼミ生から

学部4年 古畑慧多さん

現在平本ゼミには4年生9名、3年生6名の計15名が所属しています。日頃のゼミでは、教科書の輪読などを通して、経営学（特に経営戦略論）についての理解を深めています。

私が平本ゼミを選んだ理由は、高校3年生のときに参加したオンラインオープンキャンパスにて、平本先生が経済学部の説明をする際に用いていた、屋外でのゼミの集合写真が印象に残っていたからです。随分と前のことなので写真の細部までは覚えていませんが、豊かな自然と素敵な先輩方が写ったその風景への憧れを糧に、受験勉強に励んでいたことを確かに記憶しています。

ゼミ選考に運よく合格し、平本ゼミの一員になってから一年と数カ月が過ぎましたが、振り返ってみると想像以上に充実していたように思われます。ゼミでの学びに関しては、博識な平本先生の丁寧なご指導のおかげで、知識を増やし、物事をより深く考えられるようになったと実感しております。

ゼミ以外の場でも、ゼミ生同士の仲が良かったため充実して過ごしています。4年生はグルメが多く、よく食事や飲みに行きます。また、先日はジンパが開催され、学年を超えた交流を楽しみました。

平本先生や他のゼミ生への感謝を忘れずに、残りの大学生生活を楽しみたいと思います。



□ゼミで感じる心地よさと刺激

学部3年 安保萌生さん

「平本先生の博学多才なところ＋ゼミ生同士の会話における良い雰囲気」これらが私の平本ゼミへの志望動機でした。2年次前期の平本先生の講義において、経営学だけでなく、多様な分野に精通していることを知りえたことで、「平本先生のお話を沢山聞いて、自分の知見をもっと多方面に増やしていきたい」と思いました。ゼミに入った後、同期3年生5人に志望動機を聞いたところ、みんなが同じ思いでゼミを選んでいたことが分かり、笑いあったことを覚えています。

現在、ゼミに入り3か月ほど経ちましたが、ゼミ生同士や先生との会話の心地よさは変わりません。ゼミの中で、ゼミ生独自の「議論点」を持ち寄り、話し合う場があるのですが、いろいろな意見や視点があるので、毎回新たな気づきにわくわくしながら、刺激を受けています。さらにそこに先生の知見が加わることで、ゼミ全体の議論が深まります。この瞬間が、わたしの好きな時間の一つです。

また、就職活動が始まってきましたが、みんなが色々な業界・業種を見ているので、各々の話を聞けることがとても有意義な時間になっています。

平本ゼミは同時に、同じくらいの熱量をもって臨んでいるゼミ生が多いので、モチベーションをお互いに高め合いながら活動できるのが大きな魅力の一つのように感じます。



卒業生からのメッセージ

平本先生へのメッセージ

田中直樹さん(平成11年修士修了 NTTコミュニケーションズ→NTTアーバンソリューションズ)



私は平本研究室において、修士課程を最初に修了した学生でした。北大経済学部を卒業しましたが(学部時代は吉田文和ゼミ)、社会人になって勉強不足を痛感し、会社を辞め3年後に大学院の門をたたいて入学しました。

平本先生は、私の大学院入学と同年に、滋賀大学から助教授で北大に着任されました。当初は寺本義也教授、平本助教授に師事し、寺本教授のご異動により平本先生とマンツーマンという大変贅沢な環境下で、ご指導を受けました。当時、若手教員として年齢も近く、兄のような存在で、学部ゼミ生と一緒に、ゼミ議論後のお決まりのコースで楽しく語り尽くしたり、スキーにご一緒させて頂いたり、私の音楽の演奏会にもお越し頂いたり、学業以外でも大変お世話になりました。勉強不足の私に対して親身に様々な文献や論文を紹介いただき、図書館や院生室に籠り、一心に読み漁っておりました。修士論文も最後の96時間は完全徹夜で、先生が心配して代わりに前の版で提出して頂き、差し替えでしのいだことを鮮明に覚えております。お陰様で修士論文発表会だけは、会心の発表ができ、平本先生は勿論のこと、院生経営合同ゼミ教授陣の愛のこもったご指導の賜物と、心より感謝しております。大学院修了後、社会人としてビジネス界で活動し、北大の人材を社会に送り届けることに尽力しましたが、本当の意味で、平本先生への恩返しや社会へ役に立っているかを自問している毎日です。北大生は大器晩成型と言われており(揶揄?)、人生100年の中で、恩返しができるチャンスはこれからだと思っています。今回も少しでもお役に立てればと思い拙筆ながら思いをつづりました。平本先生、ありがとうございます。そして引き続き一生ご指導ください。

自分が成長していくことが実感できるゼミ

渡邊勇喜さん(平成17年卒 渡辺組代表取締役社長)



平本先生には、2004年～2005年のゼミにてご指導いただきました。私は、中学高校の頃から、経営戦略やマーケティングに興味があり、希望は平本ゼミ一択でしたが、人気で選考があり、無事にゼミに入れてホッとした記憶があります。

平本ゼミは、ゼミ自体への臨み方、ディスカッションで発言する意見の一言一句から、プレゼンテーション資料の細部まで本当に厳しく指導をいただき、当時の経済学部の中でも一番厳しかったのではないかと思います。その意味では、先生と良い意味でぶつかるメンバーもいたり、自分のアウトプットに悩む学生も多数いたかと思えます。

私は自分で望んだ道でしたので、厳しく指導されればされるほど、自分が成長していくことが実感できるような感覚があり、どんどんと真剣にゼミにのめり込んでいきました。ゼミの濃密なディベートで脳みそからたっぷり汗をかき疲労した後は、みんなで楽しくお酒でクールダウンが毎週のルーティンです。時には朝まで先生にお付き合いただきました。そんなゼミの2年間で、社会人になってからの自分のペースになっていったことは紛れもない事実です。面と向かってあまりお伝えする機会がありませんが、先生には大変感謝しております。

またお会いし、お酒を酌み交わしながら、懐かしい話で盛り上がる日を楽しみにしています。



経営戦略×熱い議論×ビール=平本ゼミ

鎌田(旧姓前川)知恵美さん(平成14年卒 札幌学院大学事務局)

1998年入学、平本ゼミ4期生です。よく学び、ほどよく遊べと平本先生はよくおっしゃっていました。ゼミでは経営戦略の本を読み進め、グループでの研究発表などをおこなっていました。

私が3年生の時に初めてゼミでビジネスゲームをおこないました。経営資源を取捨選択し、シミュレーションをおこないながら、チーム毎の売り上げを競いゲーム後は経営戦略の振り返り・分析を行うというものでした。

当時ゼミとして授業時間で設定されていたのは18時頃までだったと記憶していますが平本ゼミでは18時に通常のゼミの時間が終了した後、「さて、ビジネスゲームやるか」と延長ゼミがはじまります。他のゼミは終わり、経済学部の1階がシーンと静まりかえっている中、平本先生を中心に22時までゼミ室でビジネスゲームに白熱していました。途中の休憩時間には1階入り口付近にあった休憩スペースで同学年のゼミ生とたむろして「売上があがらない～経営がやばい～」など談笑していました。ゼミでダメ出しをもらった卒論に嘆いたり、バイトの愚痴を言ったり、いかに単位を取るか対策を練ったり等々。他愛のない話をして何でもない時間を過ごしていた日々が思い出されます。そういえば今は考えられませんが当時はその休憩スペースで喫煙可能でした。ゼミ終わりには飲み屋さんへ移動してさらにゼミ延長戦。先生の熱いお話を聞きつつ食べる「松」のしめさばとししゃもが美味しかったです。

卒業から20年以上たちよく勉強したはずの勉強部分はすっかり記憶の彼方ですが(先生すいません)、ほどよく遊んだことはふと思い出します。平本先生の魅力に集まった仲間と過ごした日々は忘れられません。平本ゼミで過ごした日々に感謝です。



現在の休憩スペース
今もゼミ生たちが「たむろ」している

平本ゼミでの貴重な思い出

菅原 帆葉(令和5年卒 JR西日本)



平本教授には、2022年の4月から2年間お世話になりました。特に、4年生での卒業論文については丁寧で温かいご指導をいただきました。真剣に取り組めば、その分教授も真摯に向き合ってください。そんな環境があったからこそ、卒業論文に対して抱いていた「卒業さえできれば」という当初の思いは、いつしか「集大成として妥協したくない」という思いに変わり、思う存分卒業論文に打ち込むことができました。

この春には、「精一杯やりきった」そんな自信を自分の中に抱きながら、卒業を迎えることができたことを覚えています。平本教授と卒業論文を通して関わる中で、3年生の頃に比べグッと距離が縮まったことも大変嬉しく思います。又、半分はコロナ禍であった私の大学生活を彩ってくださった平本ゼミの先輩方、後輩、同期にも感謝の気持ちで一杯です。

現在は、鉄道会社に就職し、福井で駅員として仕事をしています。お客様と直接関わる仕事であるため、嬉しいこともある反面、辛いことももちろんありますが、楽しく働くことができています。札幌に訪れた際には、平本教授をはじめ、ゼミの皆様とお会いできれば嬉しく思います。



懐かしの佐々木隆生ゼミ

ゼミナールを顧みて

1977年2月1日、気温が零下10度を下回る札幌に赴任し、1978年から2021年に退職するまでの30期、241名のゼミナリスト（他学部2名、学部生・大学院生を含む外国人留学生37名、社会人聴講生1名を含む）とゼミ生活を送りました。第1期生11名とゼミを始めた時は、まだ大学紛争の名残があった頃で、「佐々木君のゼミは革マル、赤ヘル、民青などが混じっていて大変だねえ」とある先生から言われたのですが、みなゼミのテキストを学問的に検討する議論を楽しみ、私を含めて参加した79年秋季ソフトボール大会優勝を果たし、茨戸レガッタに出場し、大滝村のセミナーハウスで合宿を行い、冬はスキー合宿を楽しむなど、まことに和気藹々とした生活をおくり、その伝統は以後退職まで続きました。また、ゼミには、助手・大学院生も参加したのですが、おかげで何期にもわたってゼミナリスト

ンの交流も生まれました。

ゼミのテキストは、1989年の12期から英語原書を用い、学生は大変だったかと思いますが、北海道大学の学生らしく6月くらいになると新入の学生も議論するようになったものです。ゼミ生募集の頃、そのころあったクラーク会館の生協の書店で本を探していた時に、本棚の向こうにいる学生が「佐々木ゼミは、英語あり、数学あり、サブゼミありで、時間も遅くまでやるようだし、入る奴はいるのかな」と話していたのを覚えています。



近影

1978年佐々木ゼミ草創

農業 楠 順一（昭和55年卒）

70年代後半、東西冷戦下ながらベトナム戦争が終わり、オイルショック、ドルショック、変動相場制への移行、南北問題・・・世界は転換期を迎えていた。学内では「政治の季節」が終わりイデオロギーでは解けない時代の変化を見定めようという意識が兆していた。おりから北大経済学部以降に29歳の若手マル経学者 佐々木隆生氏が示した1978年ゼミ生募集のシラバスが下記である。

面接 (希望者は 研究室にいら たい)	研究員名 (506)	レーニン「帝国主義論」 (大野書店、国共出版) ヒルフィング 「金融資本論」 (岩波文庫版上下) ポズン 「帝国主義論」 (岩波文庫版上下)
------------------------------	---------------	---

34年を通じて現代世界経済の分析を深めよう。レーニン「帝国主義論」は集約的といえる。理論的見地を導くにたいし、レーニン「帝国主義論」も内容的に把握する。中心に帝国主義論の方法、内容、理論的価値の検討を行う。
選定は演習参加者の報告討論に基づいて行う。

そのもとに硬軟、左右混在した？11人の一期生メンバーが集い、緊張感に包まれて「帝国主義論」をテキストに始まったゼミは、佐々木先生の指導のもと意外なほど？真摯に学者レーニンに「内在」することになった。2期生3名を加えた翌年のテキストは、村岡俊三氏の「マルクス世界市場論」。資本論後半体系を解き明かすという難解な労作は、新たなステージに至った現代資本主義への視点を与えてくれた。



1979年学内レガッタ出場



追い出しコンパ 1980年1月ころ

さらに、若くエネルギー満ちた佐々木氏のもと、伝統を持たぬ草創期のゼミは、「よく学びよく遊ぶ」ゼミでもあった。ソフトボール、レガッタ、スキー、麻雀・・・大滝セミナーハウス合宿での冷汗もののアクシデントも、今となれば、良き思い出。その後それぞれ社会に巣立った私たちにとって、2年間の佐々木ゼミ生活は以後の世界観の視座を得たとともに、師と友と共有する思い出の宝庫となった。

1期生

先生に育ててもらった人たちが皆が 佐々木ゼミ生

三井不動産株式会社 執行役員海外事業一部長

小野 雄吾（昭和63年卒）

北大を卒業後、不動産開発投資の世界に飛び込み、あっという間に36年余りが経ちました。真面目なゼミ生ではなかった僕ですが、この寄稿の機会を頂き、佐々木ゼミでの日々を思い出し懐かしい気持ちでいっぱいです。

佐々木ゼミに入った時、先生は41歳。スマートで格好よく、あまり大学の先生らしからぬ雰囲気（スママセン！）で、普段は兄貴のような感じでゼミ生に接してもらいました。一方、ゼミは世界経済論のゼミでしたが、先生のお話はアダム・スミスやリカードの古典からポストケインジアンなど幅広い範囲に及びつつ、いつも喧々諤々熱い議論が交わされていたことを思い出します。

卒業後、僕は東京でゼミ会の幹事的役割をやらせてもらっていました。先生のご人望の厚さから、ゼミ会だけではなく、学部や大学院、公共政策大学院で指導を受けた学生や研究者の方々の参加も多くありました。会では幅広い世代、様々な場面でお世話になった方々が集まって先生を中心に熱く楽しく盛り上がり、先生に育ててもらった人たちが皆が「佐々木ゼミ生」だと感じられる時間でした。

忙しさに感じてゼミ会の方もしばらく開催できていませんが、機会があればALL佐々木ゼミ生で昔のように盛り上がりたいたいです。

9期生



佐々木ゼミを範として

九州大学大学院経済学研究院教授 清水 一史
(昭和62年学部卒, 平成7年博士後期課程修了)

佐々木ゼミには、学部時代と修士・博士院生時代から助手時代まで長らく所属していました。多くの思い出があります。そして佐々木ゼミで学び培ったことが、今の私のゼミや仕事の多くの基礎となっています。



ゼミでは輪読や討論とともに、たとえば8-9期生とパンツードで、「佐々木ゼミ, No.1!」と、サザンのBANBANBANで歌い踊ったことも思い出深い。合宿の度に毎回やってブームでした。

そして佐々木先生のアメリカ研修中、博士院生の時に12-14期と1年間、学生だけで毎回5時間くらいゼミを行ったことを今もよく思い出します。リビエツやマルクスも読みました。ゼミ後は北18条の多良福でアフターゼミでした。例年のゼミ合宿とともに、雨竜沼も土幌小屋に泊ってワイン祭りも行きました。雪祭りでシマフクロウも作りました!

佐々木ゼミで多くの友人を得ることも出来ました。上記のゼミ生はもちろん、色々な期のゼミ生と、今でも札幌や東京や福岡でよく会っています。ゼミの仲間はずです! 1期から最後の期まで多くの方々とも、15周年や20周年の大同窓会、佐々木先生の還暦・退官・古希の際の集まりなどでお会いしています。

佐々木ゼミを範として、私も九大でゼミを行って来ました。私の担当は伝統科目「世界経済」です。もう赴任して27年目でゼミ生も27期になります。毎年、卒業論文集とともに、佐々木ゼミの『パンゲア』のような文集『志賀島』も出し続けています! 修士・博士ももちろん育てています。自身の研究では、修士論文以来、世界経済とASEANの研究を続けています。北海道の殖民軌道・簡易軌道の研究も続けています。

佐々木先生、佐々木ゼミの皆さん、是非、末永くお付き合いいたしましょう!

7期生

よく学び、よく遊び

古本とビール アダノンキ 石山 府子 (平成4年卒)

私は、13期(1991~92)のゼミ生です。佐々木ゼミ史で言えば丁度真ん中あたりです。

同期は全部で6人。教養学部で先生の世界経済の講義を受講し、その(難解なのに!)面白さと、闊達なお人柄に惹かれて集まったメンバーです。しかしこの期で特記すべきことは、何と先生が米国のプリンストン大学に研究に行かれて、丸々1年いなかったこと! 先生不在の間も、何とかゼミ生だけで、けなげに週1度のゼミとサブゼミを行っていました。今思うとサボる人など全くおらず(寝過ぎす人はいても)、何と勉強熱心だったのだろうと微笑ましいです。

当時は北大文系長屋の南端、経済学部棟の1Fに「ゼミ室」があり、ゼミ発表の担当者の打ち合わせや予習に使うのももちろん、何となく寄ってダベったり、三々五々飲みに出かけたものです。文武両道な先生の影響で、慣れないディベートが大変なゼミ合宿の他に、スキー合宿もあり、皆で良く学び、良く遊びました。

先生の学問に対する真摯な情熱、さりながら拙い意見だろうが議論ウエルカムな懐の深さによって、学問する楽しさを知ったことはそれぞれの財産となりました。先生は退官された今も、「古典に親しむ会」という(この6月9日に134回を数えました)勉強会を開いて下さっていて、有志が集まり未だにゼミは続いています。

以上、30年以上も前の話。かなり記憶がおぼろげで、14期の今中智佳子さんに記憶の補完を手伝って頂きました。

13期生



アメリカより届いた手紙にあった先生の自画像(卒業する12期生へ)

佐々木ゼミの想い出

東北大学大学院経済学研究科教授 黒瀬 一弘
(平成9年学部卒, 平成17年博士後期課程修了)

私が佐々木ゼミの門を叩いたのは世界経済に興味があったという高尚な理由ではなく、「世界経済論」という響きがかっこいいくらいのいい加減な理由でした。当時の佐々木ゼミには院生も出席されていて、毎回最後は先生と院生の議論が中心になり、学部生だった当時の私には付いていくのが困難でした。しかし、難解な議論の中に身を置くことは実に心地よい経験でした。その心地よさにすっかり魅せられてしまった私は大学院に進学し、佐々木先生には学部を含め約9年半もの長きにわたり指導していただきました。

私は多部門モデルを用いた理論研究に従事していますが、大学院での佐々木先生との『資本論』の通読は私にとって「本源的蓄積」でした。ゼミでは、古典派やマルクスを発展・批判した多くの現代数理モデルを紹介していただきました。マルクスは常に私に経済学を考える際の出発点を与えてくれていますし、大学院でふれた数理モデルは私の研究の礎になっています。



2010年秋 学生会館にて

今でも佐々木先生とお会いする度に研究上の助言や哲学・歴史等をご教授いただき、感謝の念に堪えません。いつまでも指導を仰ぐ不肖の弟子ではありますが、これからもよろしくお願ひします。先生、いつまでもお元気で!

18期生

私の人生において重要な存在

Micaela Notarangelo(平成10年博士後期課程修了)
IBCLC(国際認定ラクテーション・コンサルタント)

1993年、私は佐々木ゼミの16期生として入学しました。最初は研究生として、その後佐々木先生の指導の下で修士課程、博士課程へと進学しました。

佐々木先生は、研究者としてだけでなく、人間としても尊敬できる方です。学問的な議論を重視する研究環境を整備し、世界の経済や政治に関する様々な課題を取り上げ、ゼミ生の成長を支えてくださいました。私は外国人女性であるにもかかわらず、佐々木先生は他の学生と同じように私を受け入れてくださいました。私の「特異性」を重荷に感じることもなく、むしろそれを肯定し、活かせるように指導してくれ、私もゼミのみなさんに対して貢献することができたと感じさせてくれました。例えば、私と同じイタリア出身のパシネッティ教授のモデルをゼミで取り上げて研究していた年に、私の提案でパシネッティに連絡し、日本に招請し、それをきっかけに様々な研究交流が始まりました。その後教授になった同級生や後輩たちは、その国際的な研究交流を今でも続けています。

帰国してからしばらく経って、私の人生は経済学から離れてしまいましたが、先生から学んだ深い思考の仕方、内容が深くても誰でも理解できる説明の仕方、様々なことに好奇心を持つこと、人間に対して優しさや好奇心を持つことなど、今でも仕事の中で役立っており、佐々木先生は私の人生において非常に重要な存在であります。



受賞の喜びと 感謝の思い

1次自己回帰モデルにおける 最小2乗推定量の漸近的性質について

北海道大学大学院経済学院1年 中 尾 光 佑
(令和6年卒)

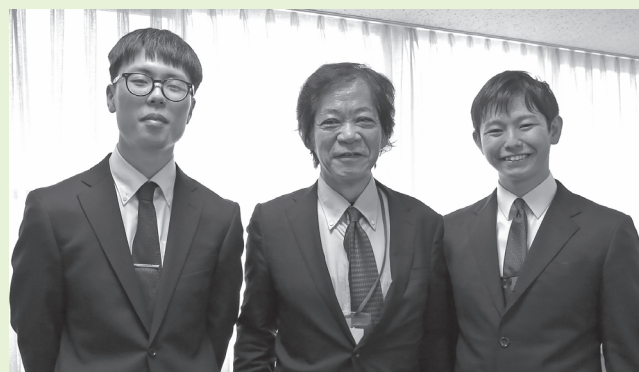
この度は、特選論文経済学部長・同窓会長賞最優秀賞に選出して頂き誠にありがとうございます。大変嬉しく、また光栄に感じております。以下、簡単に卒業論文の内容を紹介いたします。

今回、私は「1次自己回帰モデルにおける最小2乗推定量の漸近的性質について」というタイトルで論文を執筆いたしました。この「漸近的」という用語は、統計学では「標本数を限りなく大きくした際の」という意味で用いられます。推定量の漸近的性質で最も基本的なものは一致性と漸近正規性です。これらの性質がある場合には、標本数が十分大きい状況における推定量の近似的な分布（正規分布）を用いた統計的推測が可能であり、このことが漸近的な性質を調べる動機となっています。

さて、本論文の目的は、1次自己回帰モデルにおけるパラメータの最小2乗推定量が上の一致性および漸近正規性を持つことの証明です。自己回帰モデルとは、自身を自身の過去の線形結合と誤差項の和で表す最も基本的な時系列モデルの1つです。時系列モデルを扱う難しさは、基本的な独立同一分布の場合の結果を使用できないことにあります。そこで、本論文ではマルチンゲールと呼ばれる従属性を表す概念に着目し、それに連なる議論によって最終的に推定量の漸近分布を導出しました。これにより、あとは漸近分散の一致推定量さえあれば、モデルの各パラメータに関する仮説検定が可能です。

私は本研究を通じて、困難な事柄に継続的に取り組む能力を培うことができたように思います。実際、初めて研究に取り組む中で、自身の知識不足・経験不足を痛感する場面が多々ありましたが、その都度試行錯誤を繰り返し、最終的に自らの手で論文を完成させたことは、非常によい経験になったと感じます。加えて、このような形で論文を評価していただき、自信に繋がりました。

卒業論文を執筆するにあたり、指導教官である柿沢佳秀教授には多大なるご指導を賜りました。研究テーマの選定から論文の執筆に至るまで、各段階における適切なご指導がなければ本論文の完成はありませんでした。また、同じゼミの皆さんには、研究に取り組む上で多くのよい刺激をいただき、非常に感謝しております。引き続き大学院でも研究に邁進してまいります。



よい子の本音 ー組織における過剰適応のメカニズムの解明ー

NEC 梶 野 智 暉
(令和6年卒)

この度は、特選論文の「優秀賞」という栄えある賞を賜り、心よりお礼申し上げます。

私は「過剰適応」をテーマに論文を執筆しました。過剰適応とは、自分の気持ちを抑えて周りの期待に応えようとする傾向であり、「よい子（いい子）」が陥る傾向とも言われます。近年では、Z世代の若者心理を「いい子症候群」と名付けて、その実態を捉えた金間先生（金沢大）の著書が話題になりました。

学術の世界でも、過剰適応の研究は盛んに行なわれています。特に2000年頃に過剰適応傾向を測定する心理尺度が開発されて以来、定量研究の蓄積が進みました。尺度を用いた定量研究では、アンケートの結果をもとに明快な結論を導き出すことができます。一方で、自分の気持ちを抑えがちな人にフォーカスするにも関わらず、彼らが本音でアンケートに答えたかどうかを検証できず、課題として指摘されていました。

そこで、本研究では2種類の調査を実施しました。1つは心理尺度を用いたアンケート調査、もう1つはインタビュー調査です。そして、研究課題を「過剰適応がなぜ・どのようにして生じるのか、そのプロセスを明らかにする」とこととして、データ分析を行ないました。結果として、これまでタイプ分けできるという発想が主流ではなかった過剰適応が、2タイプに分けられることが確認されました。1つ目は、低い状態にある心理的満足度（例えば「自信がない」など）を高めるための方略として適応行動をとるタイプです。他者からの評価を気にしすぎてしまう人とも言えます。2つ目は、元々心理的満足度が高い状態で、組織がうまくいくように「責任感」や「事なかれ主義」を発揮して適応行動をとるタイプです。全体志向で、最悪の事態を回避することへの関心が強い人が当てはまります。

総じて「よい子」は適応力が高く、組織活動を円滑化します。反面、欠乏した自信を満たすためにコミットするあまりバーンアウトに陥る、波風を立てないことで健全なコンフリクトをもみ消すといった側面もあります。「よい子」が生み出す負を防ぐにあたって、まずは彼らへの理解を深めることが肝要になります。そんなときに、本研究が解決の一助になれば幸甚です。

※「優秀賞」を受賞されたもう一方福嶋卓さんとは連絡がとれませんでした。

— 同窓生の近況 —

偶感

加 藤 剛 規 (晃規) (昭和35年卒)

この7月に満86歳になった。所謂「五感・五官」が衰えてきた。

- | | | |
|------------|---|------------|
| ① 見る (目) | → | 読書力が落ちる。 |
| ② 聞く (耳) | → | 会話力が低下する。 |
| ③ 嗅ぐ (鼻) | → | 嗅覚が鈍くなる。 |
| ④ 味わう (舌) | → | 味覚力が落ちる。 |
| ⑤ 触れる (皮膚) | → | 皮膚感覚が鈍くなる。 |

次いで「足腰」が衰える。動物は動けなくなったらお仕舞いだ。かのアリストテレスが言っている。「生きているということは、動いているということ」(Life is motion)

八十路坂では、「五感・五官」と「足腰」の衰えを如何に遅くするかが、大事だ。人生百年の時代。その対策として次の三つを実践している。

(1) 俳句

句作には「五感・五官」をフル回転させる必要がある。そのことが右脳の強化鍛錬にもなり柔らかい頭でいつまでも惚けないと言われている。

(2) スクワット30回と近隣散歩

(3) 親族及び友人との交流 (接触交流と非接触交流)

コロナ禍のため、接触交流より非接触交流が多くなっている。非接触交流はLINE交流でやることが多い。

的でした。そのなかで大学院に進学して、先生のご専門である恐慌論を追求しようとの意思を固めました。

しかし、私は不肖の弟子でした。機会があって旧ソ連のモスクワで1年半ほど留学をしました。当時は旧来の体制の歪みとその骨化が深刻化し、後のペレストロイカへの胎動が始まり、帰国直後には共産党書記長にゴルバチョフが就きました。歴史的転換期を感じて帰国した私は、指導教官である先生に断ることもなく、ソビエト社会主義体制の研究へと対象分野を変えてしまいました。先生の専門分野とは大きく異なることもあってか、研究の進行状況を細かにチェックするよりも、直接には関係が薄い分野の研究に積極的に触れるよう導き、私の狭隘な視野を広げていただきました。研究の焦点をロシア革命期における労働現場の歴史に絞ったとき、「無名の人々、歴史の名が残らない人々の営為を言語化・表現し歴史に位置づけることがなすべきことだ」とのお考えを示されました。この視座は、その後の私にとって先生から受けたなかでも何よりの学恩となりました。

現在は高等教育の末端にあるといえる地方の小規模短大(釧路短期大学学長)に勤務しています。圧倒的多数の学生たちは「歴史に名が残らない人々」として生きるでしょう。しかし、それに、ときにはそれにこそ意味があるのだと伝え続けています。



石垣ゼミの古き良き時代を語る

田 中 利 男 (昭和50年卒)

石垣先生は、ロマンスグレーでスタイルが良くお洒落で、ゼミ生とも気さくに接してくれる方でした。

ゆるゼミと評判(?)だったせいか、昭和48年のゼミ同期は何と男子14名(前年までは6名程度)で女子はゼロ(その頃の経済学部は女子は毎年3人程度でした)。

ゼミの内容は、3年の時は、ケインズ「雇用、利子および貨幣の一般理論」日本語訳の輪読でした。4年の時は、石垣先生がオーストラリアの名門ニューサウスウェールズ大学に客員教授として赴任した為、学生が自主的にテーマを考えて、論文風に纏め相互に厳しく論評していました。先生は帰国後、全員に『優』をくれました。

唐渡興宣先生の学恩

杉 本 龍 紀

(昭和57年学部卒, 平成3年博士後期課程単位取得退学)

あの時代末期の性だったのか、経済学部の所属ゼミ選択のときマルクス『資本論』を読解することだけを考えていました。唐渡興宣先生は、マルクスを読むための知識も素養も欠ける私をゼミ生として認め、学部・大学院・助手時代を通してご指導いただきました。ゼミの記憶として、拙い報告への数多くの指摘(多くは読みの浅さと視野の狭さの指摘)とともに、ゼミの上級生、変人?ばかりだった先生門下の院生・助手とのゼミ内外での刺激的な議論も印象



ゼミ生の中には、雀荘みず木（50年前は、そば店ではなく）から直接出席する2名を始め、学部内ソフトボール大会に“4番を打たせろ”と急に現れるK君（大学7年まで遊学し地元新聞に“インド紀行”を連載した）、先生宅で飲みすぎた者等『ゆるゼミ』を謳歌していました。でも、ゼミ出席率もコンパ参加率も高く、纏まりがありました。毎年3名位しか及第点を貰えない白井先生の「国民所得論」を見事トップで通過するなど真面目な面もありました。

先生はいつも“海外に行け、世界に目を向けろ”とゼミ生を諭していました。経済面での面倒見も良く、1ドル360円の時から、経済的に厳しい学生にも留学支援の道を開いていました。私たちの時は、新渡戸稲造氏も留学した名門ジョンズ・ホプキンス大にY君が留学、北大経済学部と交流の深いポートランド大にS君が留学しました。

我が『ゆるゼミ』の圧巻は、総代が出た事です。学生運動も収まり、数年ぶりに体育館で卒業式が行われ、経済学部の総代は、真面目で几帳面なM君、総代次点には物静かなW君、候補3番目は留学から帰国したY先輩、成績上位3名が石垣ゼミ、先生は教授会で注目されたそうです。

今やこれらのメンバーも全員古稀を超えましたが、『ゆるゼミ』を卒業した多士済々な面々の交流は今も続いています。



昭和50年卒業の頃

東京の役人が思うこと

滝沢 祐介（平成11年卒）

JR北海道、NHK、サッポロビールを経て、東京都庁で政策担当課長として知事・副知事の指示を受け政策を立案する仕事をしています。

職業柄、北海道の課題にも強い関心を持っており、全国を遥かに上回るスピードで進む少子化、農林水産業の担い手激減、夏の暑さ対策など、政策展開のアイデアをよく考えています。

中でも、地域の足や物流の確保は重要な課題であり、東京も他人ごとではありません。私自身、個人的に国内外の公共交通を視察するなど日々勉強しており、北海道でできることを自分なりに3つのポイントにまとめてみました。

① JR北海道の道有化・上下分離

道は、国（鉄道・運輸機構）からJR北海道の全株式を取得した上で、線路・用地などのインフラを公有化し、経営安定基金や国の交付金等を活用して維持管理を担います。JRは列車の運行と関連事業に集中し経営自立を目指します。並行在来線（函館～小樽）や黄色線区の存続については、このスキームを前提に議論のやり直しを行います。

② 全道パターンダイヤ

全ての交通機関を等時隔で運行し接続を取ることで、時刻表を気にせず公共交通を使えるようにします。スイスでは鉄道・船・バス・ロープウェイなど全てのダイヤが接続し、利用を伸ばしています。運行頻度を上げて、自動運転や安全対策への投資によりコストは抑えることは可能です。

③ 新幹線版LCC

新幹線は非常に高い輸送能力があり、現在の想定需要では能力を持て余します。フランスのOUIGOのような新幹線版LCCを運行し価格競争力（首都圏まで片道1万円程度）を持たせることで新たな需要を喚起し、札幌延伸の経済波及効果をさらに高めます。

北海道は産業構造や環境が他県と大きく異なり、地理的にも独立しているため、道独自の基準・価値観で政策を展開することが可能です。今は東京に身を置っていますが、道民の幸せに資する政策の実現に向けて経験や知見を活かすチャンスがあれば、と強く思っているところです。



夏の暑さ対策についてパリ市と意見交換

「札幌農学校」で繋がる縁

堀 和寛（平成20年卒）

年に数回、札幌市中央区の盤渓にある「盤渓農場」で農場づくりの手伝いをしている。去年は、盤渓の山の中にある斜面を切り崩し、土を盛るなどして地面を均したうえで牧草の種を巻くという作業をした。夏には「道産子」の通称で知られる馬を盤渓農場の敷地内に放牧した。馬たちは、

森林活性化の妨げになるようなササを食べてくれるとともに、自由に歩き回ることによって地面を耕してくれる。今年は、農場を取り囲むように鉄パイプを数百本設置し、そこに網をかけることで牧柵をつくるという作業をしている。将来的には、この土地に広く牧草を育て、そこに乳牛を放牧することを目指している。



実はこの盤溪農場、北海道大学の前身「札幌農学校」の名前を冠するクッキーの製造・販売で有名な製菓企業グループが運営している。自然の中で健康的に育った鶏や乳牛が生み出す卵や牛乳を使用しておいしいお菓子をつくるという構想である。そして私自身も、その製菓企業グループに勤めている。

2008年（平成20年）に北海道大学を卒業し、その後約13年間は金融機関に勤務した。全国各地や海外での勤務を経て、2021年、コロナ禍を機に家族が暮らす札幌にUターンとして戻ってきた。現在は、こうしてたまに大自然に触れるとともに、北海道の製菓企業として成長を遂げることで地元である北海道に貢献することに面白さを感じている。「札幌農学校（＝北海道大学）」が繋いでくれた縁に感謝したい。

強く、しなやかに

藤 崎 理恵子（平成22年卒）

2010年に経済学部を卒業し、東京電力に勤務して15年目になります。東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故、分社化、小売全面自由化…「激動」という言葉がぴったりの電力業界に身を置くことに、難しさや苦しさを感じることもありますが、自身の仕事が暮らしや産業を支えているという誇りと使命感を持ちながら、日々の仕事に邁進しています。



お伊勢まいりでご利益を

2022年より、再生可能エネルギー大量導入時代における安定供給の鍵を握るデマンドレスポンスのサービス企画・運営に携わっています。大学で学んだ経営学や会計学の知識が活かされることも多く、そのたびに大学での学びに感謝しています。

また、卒業後も所属していた久保ゼミの仲間と触れ合う機会があり、同窓生の活躍に刺激をもらっています。

先行きが不透明な時代ですが、大学での学びと繋がりも原動力にしながら、強くしなやかに、時代を駆け抜けていきたいと思います。

転職？

酒 井 広（平成22年学部卒、24年修士修了）

病院に毎日通っている。通院しているわけではない。

生来の怠癖から、「何がしたいか」と同じくらい「何がしたくないか」を考えながら、流（さ）れるように生きてきた。結果として、入学して以来19年間、そのほとんどを北大で過ごしている。

学部では宇田ゼミ一期生、大学院では初の（？）指導学生として、概ね幸せで能天気な学生時代を過ごした。朗らかで自由闊達な、それでいて論理明白な師の研究指導に加え、当時の研究科では、経営学を専門とする教員が合同で学生の指導に当たる「合同ゼミ」が行われていた。「研究とは」、「研究者とは」何かを垣間見せてくれる得難い経験であった。

事務職員となった動機は不純そのもの。研究者の道を諦め、生活するために働かなくてはならなかったこと、それでも、大好きな北海道と北大に居座りたかったことである。ことは上手く運び、以降、全学的な教育制度を企画・運営する「学務部」、大学全体の運営を担う「総務企画部」に配属され大学という仕組みの大きさを知った。一方、大学の主役である学生や教員は、日々目の前にはいなかった。

ところが、この春、「大学」から「病院」へ。ほぼ、転職である。ついでに職責も増えた。これまで目の前にいなかった患者や教員という「顧客」が、毎日のように困りごとを抱えて現れる。できることとできないことを秤にかけながら、少なくとも誠意だけは伝わるように仕事を進める日々。

そういえば、キャリアとは、期せずして変化していくものだと散々、教科書に書いてあった。なるほど、こういうことか。10年経って得心した。

まがりなりにも専攻した経営学の「組織論」。職場では、毎日のように大学院で得た知識が事例として目の前を通り過ぎていく。いつか、「理論」と「実践」の架け橋となるような仕事ができたら。そのときは、学位取り直そうかな、なんて。



悲願の学内テニス大会初優勝（総務企画部）

5年ぶりの文系4学部合同東京同窓会を開催 東京同窓会のジンパも盛況

東京同窓会事務局長 菅 埜 誠 (昭和52年卒)

昨年11月11日、5年ぶりに文系4学部合同の同窓会を開催いたしました。平成30年秋以降、コロナで中止を余儀なくされておりましたが、久しぶりの開催となりました。

講演会は小口法学部会長（日本原子力研究開発機構理事長）に「日本のエネルギー政策」をお願いしました。

懇親会は、幹事学部の経済学部永松会長開会あいさつ、奥野法学部前会長の乾杯でスタート、札幌よりお見えの久保田経済学研究院長に本学の状況などをご説明いただき、盛会に終了できました。

また、本年5月19日に東京同窓会主催のジンギスカンパーティーを国営昭和記念公園（立川市）で開催しました。今回は「鉄板焼き参加者ギネス記録に挑戦」と銘打っての一大イベント。従来の鉄板焼き記録は群馬県での277人でしたが、当日の参加者は何と798人と大幅な記録更新となりました。このギネス記録快挙は、北海道新聞一面のみでなく、関東地区の新聞にも取り上げられました。



東京同窓会ジンパは、2013年に第1回が開催され、場所は東京お台場、参加者300名でスタート、常松実行委員長（経済・H20年卒）の発案によるものでありました。途中コロナ禍で中断しましたが、今回9回目は、上満実行委員長（経済院・H27年卒）が務めるなど、これまで経済学部OBが中核となって運営されてきました。当日は、資金総長にもご参加頂き、世界記録達成をジンギスカンとビールで祝いました。長年、サッポロビール社にビール協賛提供を頂いてきましたが、ここでも経済OBの陰のご協力がありました。東京同窓会では来年もジンパを開催予定ですので、どうぞお誘い合わせの上ご参加下さい。お待ちしております。（文責S.51年卒 前経済学部東京同窓会長 陣谷義直）



第41回 北大経済学部法学部対抗ゴルフ大会

今年も「伝統の一戦」が6月29日（土）晴天の札幌エルムCCにて盛大に行われました。

初心者クラスからプロ級まで、集まったのは21名（うち経済学部16名）。猛暑の中、日頃の練習の成果を存分に発揮しプレーを楽しみました。

プレー後の表彰式では、経済学部参加者全員に勝利チーム賞が配られました。優勝は仁川勲さん（S48年卒、早川泰ゼミ）、準優勝は宮本裕司さん（S50、鎌田ゼミ）、3位は西澤明広さん（S60、黒田ゼミ）とブービーも含め経済学部が“独占”しました。

因みにバスコグロは84、平均スコア98、100以上叩いた人は8名でした。

参加者は和気藹々の交流後、たくさんの賞品を手帰路につきました（本大会には毎年両学部同窓会より協賛金を頂いております）。

現在OB、OGに対し広く仲間を募集しております。今回は初

参加者も4名と会員の裾野が広がり若干若返りました。ダブルペリア方式ですのでお気軽にご参加ください。転勤で札幌勤務になった、定年で移住してきた、等々の方はぜひご連絡ください。

来年も6月の最終土曜に開催の予定です。

（文責 岩本栄一 昭和49年卒）



今年も経済学部の圧勝でした！

学生支援の新たな取り組み

その1 出前講義

一昨年から同窓会では学生の就職支援に向けての初めての試みとして、出前講義を始めました。コロナ禍のおりに学生支援として同窓会で何ができるかと検討した結果、物資の支援を行い大変好評をえました。その折りに学生たちにアンケートをとり、学生支援として何を希望しているのか調査しました。その結果一番多かったのが就職支援でした。何が学生にとって有効かいろいろ話し合った結果、2年生向けの授業を使わせていただき、経済学部、経済学研究科の同窓生に依頼し4回の出前講義を学生たちに提供していくことにしました。昨年はその第2回目です。

第一回 椿 夏葉さん(平成30年学部卒, 令和2年修士修了, 橋本ゼミ) PwCコンサルティング合同会社

「ビジネスコンサルとして生きる:

学生時代から繋がるもの



椿さんからはまず会社の紹介とご自身のコンサルタントとしての仕事の説明があり、コンサルタント業務のスキルや簡単な疑問など多角的なプレゼンが行われました。また、ご自身の学生時代は「時

間と元気がある間にいろいろな国に行く！」を目標に20カ国以上を訪れたこと、バイト・留学・ボランティアといった“人と関わる”ことの大切さ、就活も一人で悩まず誰かと一緒に考えていくなどさまざまな経験とアドバイスを学生に向けて語っていただきました。学生たちに課した課題は「(社会に出て働く際)自分の専門性を活かせることと、価値観が合うこと、どちらを重視しますか？ またその理由を教えてください。」でした。

第二回 坂上 遼馬さん(平成27年卒, 平本ゼミ) 株式会社感動いちば

「大学卒業 ≠ 就職

“なぜ働くか”を大学時代に考えてみよう」

坂上さんからはまず最初に平本ゼミのことと現在の会社と
のご縁のことなど語られ、次に会社の紹介、ご自身の就活な
どをプレゼンされました。大学時代にアルバイトで出会った



会社への就職、その頃
のご自身の考えたこと
など丁寧に説明されま
した。「自分が働くこ
とで喜んでいただける
人を何十人、何百人、
何千人、何万人と増や
したい!」をモットー
に多様な選択肢がある

就職活動について述べられました。学生たちへの課題は「今日の講義を聞いて①興味深かった点および興味深かった理由、②「働くこと」への考え方、の2点について、出来るだけ具体的に述べてください」でした。

第三回 永井 優斗さん(平成27年学部卒, 平成29年公共政策
大学院修了, 板谷ゼミ) フューチャー株式会社 HealthCare
Innovation Group シニアコンサルタント

「ITコンサルタントと考えるキャリアプラン」



永井さんからはまず会社の説明があり「ITコンサルタント」とは何かご自身の多様なキャリアも含めプレゼンいただきました。その後学生時代のお話として今もライフワークとしている競技デ

パートとの出会い、大学院進学、就活時に何を考えたかなど、学生たちに就活のノウハウも含めさまざまな観点から提起をいただきました。学生たちへの課題は「①講義の内容についての感想を自由に記載ください。②フューチャーという会社について、どう思ったか、自由に感想を記載ください。③リーディングリストの本（どれでも1冊）を読んだ感想を自由に記載ください。」でした。

第四回 佐々木 康平(平成21年学部卒,平成23年公共政策大学院修了,佐々木隆ゼミ) 内閣府政策統括官(経済財政分析担当)付参事官補佐(総括担当)

「官庁エコノミストの仕事」

※オンラインで行われました

佐々木さんからは学生時代の簡単な自己紹介と「マクロ経済を自分の生涯の仕事」にしたいと考えたことなど語られ、その後「内閣府」の仕事についての説明とご自身の仕事「経済財政政策の企画立案等に関する業務」についてプレゼン

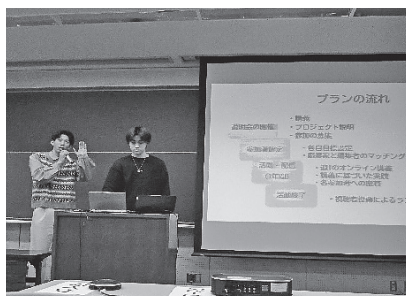


れました。わかっていないキャリアの仕事の多様性を学生たちはうかがうことができました。学生への課題は「講義を受けた所感と、今後どのよう

に学生生活を過ごし、将来仕事をしていきたいと思うかについて述べてください」でした。

講義はたくさんの学生からの質問もあり、活発な交流が行われました。今年も4名の同窓生に依頼しています。今後長く続けていきたいと考えておりますので、是非自薦、他薦問いませんので、学生たちに就職の現状などいろいろお話しいただける方がいらっしゃいましたら、事務局までご連絡下さい。(時期は10月から12月を予定しております)

その2 北海道の経済を活性化させるための地域経済活性化プラン コンテスト



2023年11月16日(木) 経済学部同窓会主催「北海道の経済を活性化させるための地域経済活性化プラン」プレゼンが開催されました。

同窓会が学生支援の一環として一

昨年から取り組んだ企画です。昨年は11組の応募があり、厳正な事前審査の結果7組がプレゼン発表に進みました。

プレゼン10分、質疑応答5分による知力の戦いを5名の審査員(久保田学部長、高木教務委員長、助教の中西先生、社会人からはAS 2年中小企業診断士の尾野さん、札幌市市議会議員の波田さん)とオーディエンス(Zoomからも)たちが見守りました。

結果は残念ながら最優秀賞賞金10万円に達したチームは出ませんでした。最優秀賞(5万円) 高井チルドレン(3年2名、修士1年1名)、優秀賞(3万円) チームKARMA T(3年1名、4年1名)、審査員賞(2万円) チーム植田

(3年2名)の3チームが受賞し賞金をGetしました!

内容はワーケーション関係が3組、農業関係が2組、空の旅の活用、アートと観光などさまざまなアイデアが提示されました。審査員の先生たちからは受賞を逃したチーム、入賞したチームそれぞれに評価された点、改善点など詳しい講評がありました。

全般的に「活性化」についてきちんと述べているチームがなかったのが残念ですが、昨年よりレベルアップの手応えもあり同窓会では以降もこの支援を続けていきますので、是非多くの学生に参加いただき、このイベントを卒業生と一緒に盛り上げていただけたらと考えています。



その3 園信太郎賞について

同窓会では長年本研究院で統計学の研究と教育に取り組まれた園信太郎名誉教授から学生支援のため100万円を寄付いただきました。協議の結果、統計検定準1級以上の合格者に



「園信太郎賞」を創設し、賞金5万円を授与することとしました。

昨年12月には学部4年の葛翔さんが1級の統計数理に合格し受賞第1号として賞金5万円を授与されました。5月には学部3年の村松英泰さんが準1級の統計検定に合格し、同様に受賞されました。

難関といわれる検定ですが是非たくさんの学生がトライし統計のレベルを押し上げてくれることを期待します。



いじめに無関心で
いられない人たちへ

問い合わせ先：教育学事務部庶務担当
TEL: 011-706-3965 E-mail: shomu[at]edu.hokudai.ac.jp

事務局 メールアドレス
dosokai@econ.hokudai.ac.jp
tsuka@jimu.hokudai.ac.jp (同報願います)
TEL 011-706-4113

北海道大学
創基150周年記念募金
(北大フロンティア基金)

17

名刺広告

パリアフリー本の子ども図書館
公益財団法人 ふきのとう文庫

代表理事

高倉 嗣昌

(経 昭和36年卒)

札幌市中央区北6条西12丁目8-3
TEL 011(222)4839

札幌監査法人

代表社員 公認会計士

高野 一夫

(経 昭和45年卒)

札幌市中央区南一条西十二丁目新永ビル
TEL 011(211)6881

弁護士

吉川 正也

(経 昭和46年卒)

札幌市中央区大通西十二丁目南大通ビル4階
TEL 011(261)6677

丸二倉庫株式会社

代表取締役社長

湯川 康史

(経 昭和47年卒)

本社
大阪府西区土佐堀2丁目2番16号
TEL 06(6441)0536

遠藤公認会計士事務所

公認会計士

遠藤 昭一

(経 昭和48年卒)

札幌市東区北二十一条東十八丁目三番三号
TEL 011(783)8123

弁護士

工藤 倫

(経 昭和50年卒)

札幌市中央区北五条西十二丁目一番地
ベルックス北五ビル B館二階
TEL 011(261)5275

田中利男税理士事務所

税理士 中小企業診断士

田中 利男

(経 昭和50年卒)

札幌市中央区南3条西6丁目3-2
南3条グランドビル601
TEL 011(261)2061

株式会社ターフテック

代表取締役

宮本 裕司

(経 昭和50年卒)

北広島市大曲工業団地五丁目一番地二
TEL 011(377)4011

野村不動産株式会社

顧問

永松 昌一

(経 昭和57年卒)

北海道大学東京同窓会 会長

株式会社 トクヤマ

代表取締役社長

横田 浩

(経 昭和60年卒)

東京本部
東京都千代田区神田1-7-5 フロントレイス秋葉原
TEL 03-5207-2500

監査法人ライトハウス

代表社員 公認会計士

北村 好孝

(経 平成4年卒)

札幌市中央区南一条西11丁目コンチネンタルビル
TEL 011(232)7102

監査法人ハイビスカス

代表社員 公認会計士

堀 俊介

(経 平成6年卒)

札幌市北区北8条西6丁目2-20
新和ビル6階
TEL 011(826)5265

吉田大吾税理士事務所

税理士

吉田 大吾

(経 平成11年卒)

札幌市中央区南3条西12丁目320-8
札幌森ビル3-3階
TEL 011(206)4236

税理士法人北前会計

統括代表社員・CEO(公認会計士・税理士)

中村 泰道

(経 平成12年卒)

札幌市北区北7条西2-20 NCO札幌駅北口2階
TEL 011(299)2624
Email: y-nakamura@kianae.or.jp

池田裕一公認会計士事務所

池田 裕一

(経 平成15年卒)

札幌市中央区南2条西5丁目10-2
サンワイドビル4階
電話 011(231)5240

渡辺組ホールディングス株式会社

株式会社 渡辺組

代表取締役社長

渡辺 勇喜

(経 平成17年卒)

本社
紋別郡遠軽町南3丁目
TEL 0158(42)3171

牧田税理士事務所

税理士

牧田 秀崇

(院経済 平成22年卒)

苫小牧市音羽町1丁目8番6号
TEL 0144(34)0385
URL: http://www.tamaki.com

名刺広告を募集します お申し込みは同窓会事務局まで

TEL & FAX (011)706-4113

Email dosokai@econ.hokudai.ac.jp

おかげさまで、106年。伝統の美味しさをご一緒に。

銀峰
味淋焼かまぼこ

献上銘鉢



創業大正七年／札幌・二条魚町

蒲鉾の かねひこ

一般社団法人 日本かまぼこ協会 副会長
代表取締役社長 中島 代博
(平21年 修士卒)

<https://www.kanehiko.jp>



今や北海道の野鳥を代表するシマエナガ。その愛らしさは子供には絶大な人気です。そのシマエナガを「かまエナガ」と名付けてカマボコにしました。北海道産の牛乳と道産のスケトウダラにチーズを入れて仕上げました。北海道のおみやげにぜひどうぞ。一社)日本かまぼこ協会「フィッシュプロテイン認証品」302円(税込み)



賜 東宮御所献上之栄
農林大臣賞
厚生大臣賞
名誉・栄誉大賞



令和6年6月期収支報告書

	項 目	金 額(円)	備 考
収入の部	前期繰越金	13,737,032	
	会費収入	2,174,000	年会費, 終身会費
	協賛金収入	1,509,000	
	広告収入	320,000	会報39号
	総会収入	0	
	その他収入	63,044	
	計	17,803,076	
支出の部	事務局人件費	862,500	
	総会費用	5,984	
	会報作成費	350,900	会報39号
	助 成 金	46,000	優秀論文賞
	協賛金からの支払い	284,648	出前授業, 地域活性プラン, 園信太郎賞表彰
	通 信 費	616,555	発送代
	消耗品費	24,801	プリント関連
	印 刷 費	0	
	旅 費	75,280	東京同窓会出張(2名)
	雑 費	31,000	
	支払手数料	51,806	振込手数料負担分
	計	2,349,474	
	収支差額	15,453,602	次期繰越金に充当

決算は7月29日付けで小泉修一監事, 久保淳司監事により決算報告書が正確かつ適正に処理されたことを認める「監査報告書」を受領しております。

協賛金(学生支援金)ありがとうございました

「協賛金」は在学中の学生に対する勉学や研究活動の支援・環境の整備改善・就職セミナー・学生の物資支援などに使われます。一般会費とは厳正に別管理とし、学部長と用途を協議して有効に活用しております。

今後とも母校後輩へのサポートをよろしくお願い致します。

ご賛同頂いた皆様は下記のとおり(敬称略, カッコ内は卒年)

100万円 園信太郎(名誉教授)

3万円 鈴木正司(S.51), 遠藤優作(H.30)

2万円 南里聖三(S.42), 田中利男(S.50), 滝沢祐介(H.11)

1万円 横山正之(S.33), 板東幸春(S.34), 小亀慶曙(S.37), 井上晃一(昭38), 西本紀夫(昭38), 鈴木信雄(S.39), 中川原慶憲(S.41), 中谷信一(S.41), 牟禮研吾(S.42), 佐藤時雄(S.42), 速水邦彦(S.44), 佐々木邦彦(S.44), 高野一夫(S.45), 湯川康史(S.47), 塩谷哲実(S.47), 大滝洋一(S.47), 濱向昭一(S.47), 榎本英雄(S.47), 奥村五百子(S.47), 遠藤昭一(S.49), 海老原之則(S.50), 鈴木 望(S.50), 南 英明(S.50), 北浦和憲(S.51), 宮下隆幸(S.53), 熊田和仁(S.60), 長縄昌弘(H.8), 中村宙正(H.12), 渡邊勇喜(H.17), 黒阪健吾(H.19), 加藤雅也(H.21), 並河史朗(H.24), 竹内康司(H.27), 小林航也(H.30), 伊藤千尋(R.3), 山崎 渉(R.5), 安里 翔(R.5), Harrod Emily(在)

※羊群会から6万円の寄付をいただきました。

昨年10月30日に感謝状をお贈りしました。

皆様から頂いた協賛金(学生支援金)の用途

- A. 卒論表彰
- B. 北海道の経済を活性化させるための地域経済活性プラン コンテスト
- C. 出前講義(交通費のみ)
- D. 園信太郎賞
- E. その他

皆様の熱い協力とご支援が必要です。何とぞよろしくお願いいたします。



100+1

プラス

創業100年、その先の+1。



TOTAL PRINTING

株式会社 須田製版
https://www.suda.co.jp

●札幌本社 〒063-8603 札幌市西区二十四軒2条6丁目1-8 TEL.011-621-1000 FAX.011-621-1500
●旭川支社 〒070-8045 旭川市忠和5条8丁目3-1 TEL.0166-62-2266 FAX.0166-61-8818
●釧路支店 ●苫小牧支店 ●東京支店
●滝川営業所 ●北見営業所

グループ会社 有限会社 シグナル 替紙中央印刷

会費のお願い

年会費 3,000円
終身会費 30,000円

振込方法は郵便局、コンビニ、スマートフォンにて同封の
「払込取扱票」にてお願いいたします。

なお、協賛金（学生支援）は郵便局のみとなりますので
ご注意ください。

同窓会活動は会員からの会費収入によって成り立っております。現役の学生
を同窓会に迎えたことで財政的には一時的には余裕のある状況となりました
が、トータルでみるとまだまだ厳しいと言わざるを得ません。どうかご理解
をいただき年会費（3,000円）の継続入金または終身会費の納入をお願い申
し上げます。

協賛金は一口10,000円とし、その用途は原則全額を現役学生への支援に充て
ます。従来から行っている卒業を祝う会や優秀論文への寄付増額にとどまら
ず、ゼミ研究・就職活動の支援に使用します。

「学生支援の新たな取り組み」を経済学部らしい企画のもと、スピード感
を持って具現したいと考えております。

なお、協賛金を納めていただいた方のご芳名を同窓会報に記させていただきます。

また、終身会費納入者以外で直近5年間一度も年会費（3,000円）を納めて
いただけない会員に対しては、会報の送付は行いません。

どうかご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

編集後記

- 今年も無事同窓会報をお届けすることができました。40号を迎えました。

同窓会室の資料の中にある「創刊号」を手に取り
ますと、「昭和57年8月10日発行」とありま
す。42年前です。同窓会長は津久雄さま（昭
和25年卒）、学部長は菅原秀人先生（昭和25年
卒）の同期コンビでした。お言葉の中に「経
済学部創基35周年を記念して同窓会報第一号
が発行されることになりましたことは誠によろ
こばしいことであります。」と記載されていま
した。待望の会報発行であったようです。操業を
開始したばかりの京王プラザホテルで記念事業
を華々しく行う予定であることがふれられてい
ます。

こうして刊行された会報が同窓会のみなさまの
努力と協力で刊を重ねてこられたことは喜ばし
く誇らしいことと思います。これからも引き続
き会報を同窓生にお届けできるように頑張っ
てまいります。

- 事務局も4年目となりましたが、相変わらずこの編集後記を書く頃はばたばたしています（毎回同じ事を言っていますが、）。同窓会室は月火水金の午後オープンしておりますので、どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。同窓会報の原稿も広告も随時募集しておりますので、お寄せください。（原稿の持込大歓迎です）

- 一昨年度から始まった新たな学生支援「出前授業」と「地域経済活性化プランコンテスト」も2年目を迎えどちらも、たくさんの同窓生、学生にご協力、ご参加をいただきました。これからもみなさまのご支援が必要です。何とぞご協力いただけますようよろしくお願いいたします。また新たに名誉教授の園信太郎先生よりいただいたご寄付を元に「園信太郎賞」が創設され、統計検定に合格された学生を表彰しております。難しい検定ですがはや2名の受賞者ができました。

- 今年のホームカミングデーの文系4部局合同シンポジウムは教育学部が当番校です。たくさんの方のみなさまのご参加をお待ちしております。昨年に引き続きメーリングリストをこのホームカミングデーのご案内として出しました。メールアドレスを登録されていない方は、会費の振り込み用紙に記入していただいてもけっこうですので何とぞ登録をお願いします。事務局に直接お知らせいただいてもけっこうです。

- 現在の同窓会は卒業した同窓生11,941名（亡くなった方を抜きました）、学部同窓生780名、院生同窓生238名という構成になっています。

2024/7/31 記



苫小牧市にある
いすゞエンジン製造北海道(株)には、
北海道大学経済学部を卒業された
皆さんの活躍できるフィールドがあります。

U/I/Jターン歓迎!

弊社は1984年に苫小牧に設立
（当社の前身）以来、いすゞグループ
の中の、自動車用エンジン部品、
および、トランスミッション関連部品
の生産拠点として、「運ぶ」を支えて
います。

いすゞエンジン製造北海道株式会社

〒059-1362 北海道苫小牧市柏原1番地4
（代表）TEL 0144-55-1221
<http://www.iemh.isuzu.co.jp>